2.生態系について

2-1 生態系に関する検討方針

基本的事項(平成9年12月12日環境庁告示第87号)において、生態系項目については、以下に示す方針を踏まえ、調査・予測・評価を行う旨が示されています(基本的事項第二、二、(2)、イ)。

> 地域を特徴づける生態系に関し、概括的に把握される生態系の特性に応じて、
>
> ・生態系の上位に位置するという上位性
>
> ・生態系の特徴をよく現すという典型性
>
> ・特殊な環境等を指標するという特殊性
>
> の視点から、それぞれについて注目される生物種等を複数選び、これらの生態、他の生物種との相互関係及び生息・生育環境の状態を調査し、これらに対する影響の程度を把握する方法、その他の適切に生態系への影響を把握する方法によるものとする。

生態系については様々な視点からのアプローチが考えられます。ここでは一つの例として、環境影響評価法に示された上位性、典型性、特殊性の視点からのアプローチを行うこととします。

2-2 上位性

2-2-1 陸域

動物の現地調査において確認された動物のうち、生態系上位性の注目種の候補として、食物連鎖の高次消費者にあたる猛禽類・肉食の中型哺乳類について選定し、さらに以下に示す観点から注目種を絞り込みました。

・事業実施区域及びその周辺への依存度が高い種
・調査すべき情報が得やすい種

2.生態系について

以下の表に、陸域における上位性注目種の選定候補を示します。

上位性（陸域）注目種の選定候補

分類	種名	主な生息環境	生息期	繁殖	主な餌種	調査難易度	既往調査結果の有無
鳥類	ミサゴ	海岸・河川部・ダム湖等	夏	×	魚	○	H11 年度以降の猛禽類調査で把握した情報有り
	ハチクマ	平地から低山帯	夏	不明	蜂、爬虫類等	○	
	トビ	市街地から山地	通年	○	魚、小型哺類	○	
	オジロワシ	海岸部から河川部・山地	冬	×	魚、哺乳類	○	
	オオワシ	海岸部から河川部・山地	冬	×	魚、哺乳類	○	
	オオタカ	低地から山地、里山	通年	○	鳥類、小型哺乳類	○	
	ツミ	低地から山地、里山	通年	×	小型鳥類	△（樹林性の小型種）	
	ハイタカ	低地から山地、里山	通年	○	小型鳥類	△（樹林性の小型種）	
	ノスリ	低地から山地、里山	通年	○	小型哺乳類	○	
	クマタカ	山地	通年	○	鳥類、爬虫類等	○	
	チュウヒ	低地・湿原	夏	×	小型哺乳類	○	
	ハヤブサ	海岸から平地、山地の崖地地帯	通年	○	小型鳥類	△	
哺乳類	ヒグマ	平地・牧草地から山林	通年	高い	中小型哺乳類、農作物、木の実等	△～○	一部の情報は有るが詳細は無し
	キタキツネ	平地・牧草地から山林	通年	高い	小型哺乳類、木の実等	△	哺乳類痕跡調査での情報が有るが詳細は無し

※調査の難易度は、「○」：容易、「△」：やや困難という目安である。

以上より、生態系上位種としては、種の貴重性、事業との係わりを勘案して「クマタカ」を候補とします。

ハヤブサ、オオタカ、ハイタカとクマタカに関しては、クマタカの方がより上位であること、ヒグマとクマタカに関しては、クマタカの方が調査結果を得やすいことや、ヒグマの行動圏が広く調査結果を得にくいこと、既に蓄積されているデータが多いことを理由に、クマタカを候補としました。

なお、ハヤブサ、オオタカ、ハイタカに関しては鳥類の項目で、ヒグマに関しては、哺乳類の項目で、影響検討等を行います。

なお、とりまとめる項目は以下の通りとします。

- 一般的生態
- 調査地点、調査期間、調査範囲（視野範囲）
- 調査結果
- 繁殖テリトリー及び土地利用の状況
- 「工事の実施」及び「土地又は工作物の存在及び供用」時における影響検討等

2-2-2 河川域

「動物」の現地調査で確認された動物のうち、生態系上位種の視点により、河川域の食物連鎖において高次消費者である種を選定します。

河川域の調査に関しては、現状では「魚類」・「底生動物」のみが実施されていますが、その他の項目に関しては、今後調査を実施することとなります。

したがって、現状では上位種の選定はしないこととします。上位種選定候補としては、「サギ類（アオサギ)」、「カワガラス」、「カワセミ」、「ヤマセミ」等が挙げられます。

上位性（河川域）注目種の選定候補

分類	種名	主な生息環境	生息期	繁殖	主な餌種	調査難易度	既往調査結果の有無(湛水域周辺での確認)
鳥類	アオサギ	河川・湖沼	夏	不明	魚、水生生物	△～○	H14・H15 年度の一般鳥類調査での目録のみ確認が有る。
	カワガラス	渓流沿いの樹林	夏	不明	水生昆虫、稚魚	△	
	カワセミ	海岸～平地の河川・湖沼	夏	不明	魚、水生生物	△～○	過年度調査での確認無し。
	ヤマセミ	河川(中流～上流)・山間の湖沼	夏	不明	魚	△～○	

※調査の難易度は、「○」：容易、「△」：やや困難という目安である。

なお、とりまとめる項目は以下の通りとします。

- 一般的生態
- 調査地点、調査期間、調査範囲（視野範囲）
- 調査結果
- 繁殖地及び土地利用の状況等の整理
- 「工事の実施」及び「土地又は工作物の存在及び供用」時における影響検討等